

学外研究支援（海外）に係る成果報告書

2025 年 4 月 7 日

北九州市立大学 学長 様

所属・職名 外国語学部・教授

氏 名 齊藤 園子

2023 年度に実施した学外研究支援（海外）について、下記のとおり成果を報告します。

[実施期間]

2024 年 3 月 22 日 ～ 2025 年 3 月 21 日

[出張先]

国連本部・New York Hilton Midtown（ニューヨーク、アメリカ合衆国）

ローマ・サピエンツァ大学（ローマ、イタリア共和国）

[テーマ]

- （1）欧州のアメリカン・コロニーにおける文化的アイデンティティの問題
- （2）国際ネットワークの構築を促進する国際交渉力の育成
- （3）国際的な取組みへのコミットメントを通じたジェンダー平等（SDG5）の推進

[当初の目標及び成果の要旨]

(1) 欧州のアメリカン・コロニーにおける文化的アイデンティティの問題

イタリア共和国ローマ・サピエンツァ大学（ローマ第一大学）を拠点としてアメリカ研究と英語圏文学に関わる本課題研究を推進し、Henry Jamesをはじめ、19世紀から20世紀にかけてローマを訪れたアメリカ人作家や芸術家の活動の調査を進めた。サピエンツァ大学では文献収集や関連分野の研究者との意見交換を推進するとともに、定期的に行われる講演会やシンポジウムにおいて情報交換に参加した。また関連分野の研究者が担当する授業において、本研究課題に関連するテーマで講話を行う機会も得た。ローマ市内における資料収集や情報交換の場所として、他にも、ローマ・アメリカ研究センター、アメリカン・アカデミー、ローマ国立中央図書館を主に利用させていただいた。

日本ヘンリー・ジェイムズ協会のニューズレターに、2019年に出版したHenry James作品の翻訳書（単著）『後見人と被後見人』に関わる文章を寄稿した。また、American Literature Association (ALA) の第36回年次大会（開催地：米国ボストン）にて本研究課題に関連するテーマで発表を行うことが決まっている。学会活動としては、所属する国内学会のうち3つの学会において編集委員としての活動を継続した。

なお、ローマ・サピエンツァ大学が提供する客員教授・研究員プログラム（Professori Visitatori 2024）に研究課題が採択されたため、2025年4月以降もローマ・サピエンツァ大学において研究を継続することが決まっている。ローマ・サピエンツァ大学のアメリカ研究分野の研究者との研究協力関係を発展させて研究を遂行する予定である。

(2) 国際ネットワークの構築を促進する国際交渉力の育成

グローバル教育関連で、「国際ネットワークの構築を促進する国際交渉力の育成」および「国際的な取組みへのコミットメントを通じたジェンダー平等（SDG5）の推進」についての研究を継続的に遂行した。2023年度北九州市立大学特別研究推進費による研究「国際ネットワークの構築を促進する国際交渉力の育成」および2021年度から2022年度の二か年にわたって遂行した2021年度北九州市立大学学長選考型研究費A（企画型研究）による研究「国際的な取組みへのコミットメントを通じた本学におけるジェンダー平等（SDG5）の推進」を継続する研究課題である。

当該学外研究期間は、2024年3月末の全米模擬国連ニューヨーク大会への参加から開始した。世界各地から多数の大学生が参加する本年次大会は、グローバル教育の現在を知る上で重要な機会のひとつである。本大会には本学英米学科学生4名有志と参加した。正規の授業時間外の活動となるため、学生と教員の双方にとって準備時間や経費の確保をはじめ、多方面で負担が大きい活動であるが、参加を希望した学生の意欲や、参加経験を持つ卒業生の協力、これまで時間をかけて築いてきた海外の大学との協力関係の発展によって、無事に参加を果たして成果を得ることができた。

海外の大学との協力関係については、MacEwan University（カナダ）の教員および、本学協定校の文藻外語大学（台湾）の教員と国際ネットワークを構築することで実施した。両大学とも、関係教員・学生と、オンラインで連携して学習するオンライン国際協働学習（COIL）を事前に複

数回開催し、実践的に英語によるコミュニケーション力の向上を図るとともに、国際問題への専門知識を高めることを目指した。COIL、PBL（Project-Based Learning）、アクティブラーニングの手法を考察する上でも有益な知見を得ることができた。大会開催地のニューヨークでは、MacEwan Universityとの直接の交流や、本学の卒業生との情報交換を進めることができた。国内外でのネットワークの構築のあり方について考察を深める機会となった。

これまで時間をかけて積み上げてきた国際的なネットワークは、2024年11月末から12月にかけて開催された全米模擬国連ガラパゴス大会参加の質的な向上にも大きく寄与した。特にMacEwan Universityとの連携をさらに発展させ、COIL、PBL、アクティブラーニングの要素を適宜取り入れて準備活動を進めた。ガラパゴス大会では有志で参加した国際関係学科学生の健闘が大会側から認められ、Honorable Mention Delegation Award を受賞した。また、欧州での英語模擬国連の状況を視察するため、ドイツ連邦共和国で開催された国内大会を視察する機会をもち、有益な情報を得た。

なお、模擬国連は国連アカデミック・インパクトの原則に貢献する活動として国際的にその意義が認められている活動である。毎年模擬国連への参加を継続していることは、それ自体有意義である。

（３） 国際的な取組みへのコミットメントを通じたジェンダー平等（SDG5）の推進

国際的なネットワークの構築にはジェンダー平等に関わる意識が不可欠である。本研究課題は「国際ネットワークの構築を促進する国際交渉力の育成」にも関係する課題であるが、上述の模擬国連関連での機会に加えて、研究拠点のイタリアにおいても、ジェンダー平等に関わる現状や取り組みについて理解する機会をもつことができた。中でも、ローマ第三大学のジェンダー研究の専門家との意見交換、国際女性デー（３月８日）のイベント視察は特に有意義であった。

本学外研究の成果は、以上の課題に関わる研究の発展に寄与することはもちろん、「Global Negotiation Skills」「英米文化研究」「Literature in English」をはじめとした授業運営を通じて、社会還元が図られる。

[成果の公表]

- ニュースレター記事

齊藤園子「若いジェイムズとの遭遇——『後見人と被後見人』(*Watch and Ward*) のなぞと推進力」『日本ヘンリー・ジェイムズ協会ニュースレター』 第４号、2024年、22-24頁。

<https://hjsj.jimdofree.com/app/download/12402778097/HJSJ+Newsletter+No.4.pdf?t=1731937233>

- 学会発表決定

Sonoko Saito. “The Rome that Nora and James Explore,” The 36th Annual Conference on American Literature, The Westin Copley Place, Boston, USA, May 22, 2025. (English)

[参加した学会・研究会・講演会]

- “Transnational Perspectives on Post-Truth (2024-25)” 講演会シリーズ（全9回）
主催：Department of European, American, and Intercultural Studies, Sapienza University
期間：2024年9月17日～2025年2月13日
会場：Marco Polo Building, Sapienza University of Rome
- “Quella volta che mi sono ubriacata e ho salvato un demone” 講演会
主催：Camera di Commercio di Roma
日程：2024年9月23日 17:30～
会場：Biblioteca della Camera di Commercio di Roma
- “Writers and Presidents: The POTUS in US Fiction Culture” シンポジウム
主催：Research Project: The Global Rise of Post-Truth, Sapienza University
日程：2024年10月25日 9:30～18:00
会場：Marco Polo Building, Sapienza University of Rome